

心 の め ば え

アヤと過ごすジイジの日記

<13>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

4歳2カ月

かくれんぼ

最近、バアバと「かくれんぼ」をすることを覚えた。ところが、どうも、「かくれんぼ」とはど
ういうものかということが完全には分かっているようである。
バアバが隠れる番のときは、アヤは両手で目隠しをして「二二三、…十」と大きな声で数え
たあと、バアバを探しにかかる。家の中を探し回って、バアバがソファの後ろに隠れているの
を見つけると、大喜びする。ここまでは普通通りである。

自分が隠れる番になると、バアバが「二二三、…十」と数えている間に、大騒ぎをして隠れよ
うとするが、物置とか風呂場とか家の隅のほうにある暗いところは怖いものだから、「ジイジ
も来て」となる。

うまく隠れ場を見つけて、台所の隅にジイジと一緒隠れても、
「バアバはトイレのほうに行っちゃったよ。あ、こっちに来そうだよ」
などと大きな声でジイジに話しかけてくる。

「しーっ」
と口に指を当てて静かにするように言っても、大きな声で
「しーっ」

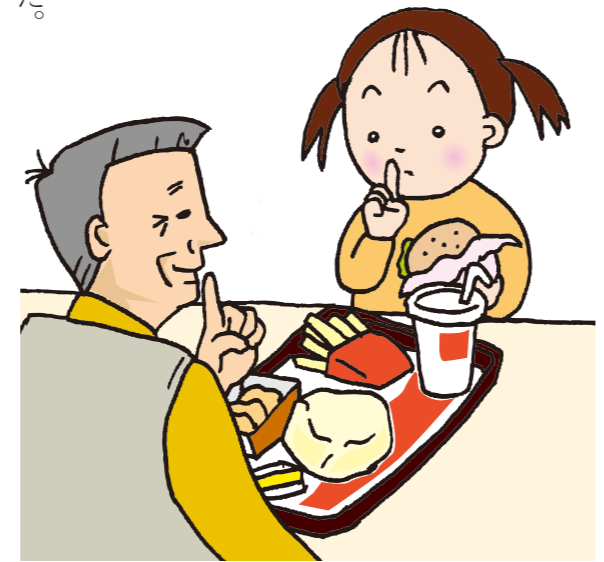
と同じ仕草をする。これではすぐにバアバに気づかれてしまう。どうも、目で見つかることと
声で感知されることが、関係しているということに気づいていないらしい。
物事を総合的に把握して理解するためには、もう一段階、成長が必要なようだ。

4歳4カ月

正義と信義

アヤとよくお昼に外食することがある。今日もお昼にマックに行った。
「昨日もマックでチキンナゲットを食べて、マックシェイクを飲んだし、マックに行きすぎだよ」
とママが注意しているのだそうである。アヤは

アヤ 「今日、ジイジとバアバとマック
に行ったって言わないでね」
ジイジ 「分かった、言わないからね」
アヤ 「約束だよ」
ジイジ 「うん、約束するよ」
お家に帰ってママに会うと、真っ
先に大きな声で
アヤ 「今日はマックに行っていない
よ」
と言っている。これではバレバレでは
ないか。やっぱり幼児の知恵だな。
裏を読むところまでは考えが及ばないのだ。



そこで、ふと考えてみた。今日、アヤとマックに行ったということをママに言わないのは正義に
反する。でも、正義にしたがって、ママに真実を伝えるのは、アヤに対する信義にもとる。一体ど
ちらを優先すべきなのだろう。

しかし、マックに行ったことは事実だし、それなのにママに嘘をつくのはよくないことだ。アヤ
とジイジとの信頼関係は重要なことだけど、それにもまして正義に反することを許すのはア
ヤの未来に陰を落とす。
やっぱり、ママに嘘をつくのはよくないことだ、ということをもまず教えるべきだったのかな。

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、
理学博士。京都大学助手、助教授、広島大学教授・学長、福
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀
樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(右波書店)、「量子力
学」(裳華房)などがある。東広島市在住。

ジイジへのお便り
エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係へ